



# 農業生産の拡大と地域の活性化

JAあいち知多は「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向け、全力で自己改革に取り組んでいます。日々の取り組みを通じ、組合員をはじめ多くの方々に「JAあいち知多は農業や地域にとってなくてはならない存在」だと思っただけのような活動を展開しています。今月は最近の主な取り組みの一部を紹介します。

## 農業生産の拡大・地域の活性化

# 新たな農家を一丸となつてサポート



新規就農者に記念品を渡す前田組合長

知多半島は愛知県内でも農業の盛んな地域です。毎年農業経営に夢を持った若者などが多数、農家の仲間入りをしています。近年では学校を卒業して親元で就農する後継者のほか、いったん農業以外の職業についてから就農するUターンや、まったくの農業外から就農する新規参入の人も増えています。JAあいち知多ではこのような就農者の農業経営や栽培技術の習得を、地域・行政と一体となって支援しています。各営農センターには営農アドバイザーを置き、栽培や販売について、さらに規模拡大に向けた資金や経営の相談に応じています。

JAあいち知多、知多農林水産事務所、知多地域の5市5町でつくる「知多新規就農支援協議会」は7月18日、常滑市のJAあいち知多総合本部ビルで新規就農者激励会を開きました。昨年5月2日から今年の5月1日までの1年間に、知多半島内で就農した農家のうち、16人と1組の夫婦が激励会に参加し、農業経営にかける抱負を述べました。

JAの前田隆組合長は一人一人に記念品を渡し、「JAも一丸となって支援していく。農業の成長に向けて、ともに頑張りましょう」と激励しました。

## 農業者の所得増大

# 知多のイチジク輸出本格化

農業者の所得増大に向けて、JAあいち知多とJAあいち経済連は愛知県の特産品であるイチジクの本格輸出を8月中旬から始めました。昨年までの2年間に、知多半島産イチジクを香港の量販店に向けて、試験的に輸出してきました。試験輸出で、現地では完熟したものより固めのものが好まれることや、輸出専用箱での傷みの有無など

を確認しました。中部国際空港（セントレア）がある知多半島の強みを生かし、朝収穫したイチジクはJAの集荷場で選別・箱詰めした後、その日の夕方には香港に到着。翌日には現地の店頭に並びます。今年9月末まで毎週2回、週に30ケース（1ケース9玉入）を継続して輸出する予定です。



輸出専用の箱に詰めたイチジク

## 農業者の所得増大・農業生産の拡大

# 担い手の意見を積極的に取り入れ



担い手農家の意見を聞く営農センター長と支店長

JAあいち知多では、生産者個々の農業経営に関する方向性やニーズについて、またJAに対するご意見やご要望を直接お聞きするため、生産農家を個別に訪問し、面談する活動を行っています。

知多半島の農業を支える担い手農家の823先を対象に、7月から8月にかけて本・支店長と営農センター長が各戸を訪問しました。

平成29年度にも2回実施しており、今回が3回目の訪問となります。定期的な訪問活動で、前回の要望に対する回答や事業の取り組み状況などを説明しています。

今回は農業経営に関する意向を確認するとともに、農業チャレンジサポート事業、JAの自己改革の取り組みについての評価やご意見をいただき、さらなる自己改革へ反映していきます。